

親子一体の教育法

宮本百合子

青空文庫

若々しい時代の影響

私たちの育った時代の父と母との生活ぶりを考えると、若い生
活力の旺な自分たちの生活への態度そのものの中に幼い子供たち
をひつくるめて前進して行つたという感じがする。

もし家庭教育ということ言えば、そういう積極活潑な日常の
生活感情が、おのずから親として子供らに対するあらゆる場合の
裡に溢れていて、子供の人生への歩みぶりにいつとはなし影響し
て来ていたと思われる。

ごく活々としていた家の空気は大人にとっても子供にとっても

成長力の漲ったものであつたが、それは人間の成熟のために計劃され、整理されたものではなくて自然に、云つて見れば父や母の年齢、氣質、時代の雰囲気との関係でかもし出されていたものだつたから、両親が年をとるにつれて、若々しく克己的で精勵だった気分は變化した。そして、大きくなつた子供としてはそこに悲しさや苦しさを感じるようなものも生じた。

或る程度までは誰についても云われることだろうが、うちの父や母は自分たちの時代のいろいろな歴史の性格というものを自分では其と知らず、しかも全幅的に生きた人たちであつた。

今考えて見て、一つの大きい仕合わせだつたと思うことは、父も母も、型にはまつた家庭教育という枠を、自分たちと子供らと

の間からとりはずして大人も子供も一つ屋根の下ではむき出しに生活して行ったことだと思う。明治と共に生きた親たちは、一種の人本主義で、盆栽のような人間の拵えかたには興味を感じないたちであつた。人間は人間らしく誰にも十分に生きるべきだし、そういう風に生きてよいものなのだという感情は、家庭の空気の様々な変化を貫いて流れていたと思う。

親たちは、時によれば子供たちのいるところで喧嘩もしたし、やがては親と子との間に議論もされてゆくという風であつた。綺麗ごとで送られる毎日ではなかつた。

母にはなかなか諤がくがく々なところがあつていくつ位の時だったか、何かの事でひどく母が私を叱つた。私としては自分の心づもりが

あつてしたことで、どうしても其が悪かったとは思えなかったらしい。悪いと思えないのだから、あやまるということもしにくかったものと思う。いつまでも御免なさいと云わなかったら、じゃあ、お母さまと百合ちゃんど、どっちが間違っているか、わかるまで二人で坐つて考えよう、と云つて、多分お昼だったのだろうと思うが、一度御飯をずうつとのばして、二人で向い合つて坐つていたことがあつた。

おしまいには、どっちが自分の間違いを発見したのだったか、覚えてもいない。それがどういうことだったかとも思い出さない。けれども、そう云われて坐つていたということばかりは、よくよくおなかが空きでもしたと見えて、今もはつきり覚えてゐる。

家の日々の空気が作用する

そんな思い出の一方には又こんなこともある。

小学校へ入って程なく音楽がすきだからというのでピアノを習いはじめた。うちにはベビー・オルガン一台あるきりで其で教則本をあげた。そしたら先生がピアノを買った方がいだろうというすすめで、一台中古を見つけてくれた。或る晩、九つの私は父につれられて本郷の切通しだったか坂の中途にある薄暗いその楽器屋へピアノを見に行った。いく台も並んである間にはさまって、その黒いピアノは大したものにも見えなかったので何となしぼー

としてかえつて来た。ところが何日か経つて、天井の低い茶室まがいの部屋へそのピアノが入つて来たとき、私のおどろきと讃歎はどうだったろう。こんなに綺麗で、こんなに立派だったとは思ひもかけず、左右についている銀色の燭台に蠟燭の灯をきらめかせて、何時間も何時間も、夜なかまで夢中になって鳴らしていた。

大きくなつて見直せば、そのピアノは日露戦争の時分旅順あたりにあつたものを持つて来たもので、おそろしい時代ものの上に、こわれたところを修繕して全く色の違う木がところどころにうめであるという品物であつた。後年父や母は笑いながら、だつてお前、あれだつて買ったときには家じゅうにお金というものが三十円きりつきや残っていなかったんだよと云つた。若いからこそ思

い切ってそんな事も出来たんだね、と懐しそうであつた。

人間のねうちは着物ではないと云つて、小学校の四、五年ごろ董色のカシミヤの袴の色のさめたのを、仕立て直して、襦のひろい方へもと上の方だった狭い褪せたあとの出たのを穿かされたのも覚えてゐる。それを器用に染め直して、お前は女の子だからこんなことも覚えてお置きとは云わなかつたところに、よかれあしかれうちの特徴があると思う。

どういふ時代でも、抽象的な家庭教育などというものはなくて、畢竟は親たちの生きてゆく日々が家全体の空気として微妙に生々しく作用してゆくものなのだろうと思う。

〔一九四一年十二月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第三十巻」新日本出版社

1986（昭和61）年3月20日初版発行

初出：「女性生活」

1941（昭和16）年12月号

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2007年11月30日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

親子一体の教育法

宮本百合子

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>